

広島別院だより

九月一十六日、秋彼岸会が勤まりました。法話は比治山町の泉原寛康師(安芸南組法正寺)です。以下、法話の抄録です。

●歩み始めて気づかされる身の事実

善導大師の例え話に「二河白道の比喩」がある。これは、ひとりの行者が彼岸ニ净土に向かつて歩み始めた時、忽然と水と火が激しく交錯する河に行く手を阻まれる話である。河には細くて白い道が一本あるだけで、この道を行くしか助かる方法は無い。すると突然、河の手前で立ち尽くす行者に、釈尊の「そのまま行け」という声と阿弥陀仏の「恐れずに來い」という声が聞こえてきた。その声に励まされ行者は無事に浄土に到るのである。水は人間の貪欲を、火は人間の瞋恚(怒り・憎しみ)を表している。

この話の興味深いところは行者が歩み始めた後に水火二河が現れることがある。何か人生の問題があつて、それを解決するために仏道を歩むのではなく、仏道を歩み始めたことで問題にぶつかるということである。つまり、仏道を歩むということは貪欲や瞋恚を抱え悶え苦しむ我が身の事実に気づかされるということであり、歩まなければ問題を抱えていても気づかずに生きるということに他ならない。



泉原實康 師

Vol.38
秋号

真宗大谷派（東本願寺）
広島別院教化委員会
発行

●浄土真宗の仏道

●阿弥陀仏は何処に
この例え話について藤元正樹先生はやさしく面白い話を付け加えられた。釈尊と弥陀の励ましによつて無事に浄土に辿り着いたのだが、浄土の主である阿弥陀仏は留守だつた。では、阿弥陀仏はどうこに行つたのか。実は此岸(人間の住む迷いに世界)にいたのだ。

私の住む寺に、金子大栄先生から頂戴した「破調和如来」と書かれた書がある。これは恐らく金子先生の独創であろう。解するに阿弥陀如来は調和を破り(浄土のせどりをあえて捨てて)、私たちが生きる此岸(迷いの世界)にすでに來たり至つてゐるという意味であつ。阿弥陀仏は浄土の世界で安閑としているのではなく、迷いの世界で私たちを目覚めさせるべく日夜はたらき続けているのである。そして、白道は私が志を持って歩む道なのでなく、阿弥陀仏が私に先立つて浄土から此岸にやって来た足跡なのである。

●そのままの救い

仏道を歩み始めたことによつて我が身の事実が知らされる。ならば、私たちが抱える貪欲や瞋恚は無くなるのか。答えは否である。歩めば歩むほど問題の根深さを知らされるのである。しかし仏はそれを百も承知で「そのまま救うぞ」と仰せられる。大切なことは我が身の事実に気づかれる

本来、仏道とは六波羅蜜などの厳しい修行を経てさとりを開くことである。しかし浄土真宗の仏

道は仏法を「聞く」ということに尽きる。「聞く」ということが浄土真宗の仏道なのである。『三帰依文』に「人生において仏法を聞く身になることは大変稀なことである。しかし私はすでに聞かせていただいた」という一節がある。今日こうして私たちは別院彼岸会という仏法聴聞の座にいることが、仏のはたらきによってすでに仏道を歩ませていただいているという事実なのである。

真宗の仏事入門講座開催

九月十七日、真宗の仏事入門講座（講師・本山本廟部長 近松誉師）の追加講座が開催されました。

今回は前回に続き、東西本願寺の作法や仏具の違いについての講義でした。元々、東西本願寺ともに同じ作法だったようですが、特に西本願寺の第十四代寂如の時代に度重なる改革によつて、東西本願寺の作法（仏具や声明）に大きな違いが生まれていったことなど興味深いお話でした。

次回は十二月十七日（土）の開催です。ぜひ、ご参加ください。



近松誉師

親鸞聖人の生涯を辿る

夢告(むごく)

六角堂への参籠中に親鸞が受けた夢告は一説には女犯偈(によばんげ)と呼ばれる偈文だと言われています。内容は次の通りです。

行者宿報にてたとひ女犯すともわれ玉女の身となりて犯せられん一生の間よく莊嚴して臨終に引導して極楽に生ぜしめん

この夢告が法然のもとに向かわせたきっかけになつたようです。この偈文から女犯すなわち性が問題になつてゐることが読み取れます。しかし、これだけでは法然のもとに向かつた理由が分かりません。この偈文には続きがあります。

これは是我が誓願なり
善信この誓願の旨趣を宣説して
一切群生に聞かしむべし

この偈文から親鸞は戒律を破り妻帯しても在家生活の中にこそ仏道があるのだと受け取つたのでしよう。九十五日目に受けた夢告により真の仏道を確信した親鸞は俗世で教えを広めていた法然に出会うことこそが自分の使命であると直感したのでないでしようか。

法座・講座等のお知らせ

12月7日(水) 8日(木) 報恩講

【日程】7日(水)14:00～勤行と法話 16:30～御伝鈔の拝読
8日(木) 8:00～勤行と法話 10:00～勤行と法話

【講師】7日(水)北広島町順覚寺 住職 淀渕一思先生
8日(木)銀山町徳栄寺 住職 灘尾 寛先生

＜親鸞聖人のご祥月命日を縁として勤める

浄土真宗の最も大切な法要です＞



淀渕一思 師



灘尾 寛 師

12月17日(土) 真宗の仏事入門講座

【講師】近松 誉先生(東本願寺本廟部長)

【日程】13:30～16:00 【会費】500円

浄土真宗の仏事について学ぶ講座です。ぜひご参加ください。



毎月5日 定例法話 (ご今日の集い)

【講師】県内僧侶(月替わり) 【日程】14:00～勤行と法話(15:00終了予定)

〈広島別院開基 教如上人の御命日(毎月5日)に法話会があります。〉※1月は休みです。

講座・法要・定例法話にお参りの際は、マスク等してコロナウイルス感染拡大防止にご協力ください。

う痛風になりました
ある日突然、足首の激痛に襲われた。捻挫した憶えはない。どうも痛風が発症したようである。以前から医師に「尿酸値が高いし、いつ出てもおかしくない」と言っていたので、ついに来たかと。

それにも拘らず、夕食のメニューがお好み焼きだったので、ついついビールに手が伸びてしまう。ビールが痛風に悪いのは分かっているのだが…。

♪わかっちゃいるけど、やめられない♪と、かつてクレイジー・キヤツツの植木等氏が歌つたこの歌を父親の植木徹誠師(真宗大谷派僧侶)が「これこそ御開山親鸞聖人の教えた」と絶賛されたとか。

（H・N）

痛みになつてわかつたことがある。痛風はあまり同情されない。お参りに行つた先で痛風だといふと笑われる。以来、「ご門徒には捻挫したと言うことにし

【編集室より】

道場樹

